

8-3-6 報酬のあり方検討WG

1. WGの概要

(1) 活動目的

報酬のあり方検討WGは、建設コンサルタント業界の報酬・積算体系の問題点・課題を整理するとともに、新たな報酬・積算のあり方について検討することを目的としている。

また、検討成果は本省意見交換会や未来塾等を通じて発注者へ情報提供し、必要に応じて改善提案を行うこととしている。

令和4年度は、マネジメントシステム委員会との意見交換を行うとともに、新たな報酬のあり方についての提言（素案）を作成した。

(2) WGメンバーの構成

WGの構成メンバーは以下の5名である。

WG長：(株)建設技術研究所 杉本 龍志

委員：大日本コンサルタント(株) 月野 郁也

(株)復建エンジニアリング 戸田 秀夫

日本工営(株) 吉原 信幸

(株)建設技術研究所 清水 隆史

(12月退任)

(株)建設技術研究所 高倉 逸朗

(1月～)

2. 主な活動報告

(1) WGの開催

WGは、企画委員会の開催等に合わせて、以下の日程で計10回行った。

- ① 令和4年4月12日
- ② 令和4年5月30日
- ③ 令和4年6月24日
- ④ 令和4年7月21日
- ⑤ 令和4年8月4日
- ⑥ 令和4年10月26日
- ⑦ 令和4年11月22日
- ⑧ 令和4年12月21日
- ⑨ 令和5年1月25日
- ⑩ 令和5年2月22日

⑤:マネジメントシステム委員会との意見交換会

(2) 検討内容

a) 成果連動型報酬形態の検討

アベイラビリティ・ペイメント(A/P)とソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)の報酬形態「成果連動型民間委託契約方式」の官民連携業務への適用性を検討した。また、事業促進PPP、CM、PFIにおける報酬のあり方について、マネジメン

トシステム委員会と意見交換を行い、ここで得た意見を提言書(素案)作成の参考とした。

b) 事例収集

A/P方式、SIB方式に関する実施事例等の情報収集を行った。

c) 提言書(素案)の作成

2019年度からの議論を踏まえて、提言書(素案)を作成した。

3. 検討内容の概要

検討した内容の概要を以下に示す。

(1) 成果連動型報酬形態の検討

- ・高度なマネジメントを行う業務の準委任契約と適正な技術者単価の必要性について
- ・「成果連動型民間委託契約方式」による成功報酬について

(2) 事例収集

- ・アベイラビリティ・ペイメント(A/P)方式
- ・ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)方式

(3) 提言書(素案)の作成

現行報酬・積算体系の課題、報酬形態の例示、新たな報酬のあり方への問題提起を行った。そして、現行制度の改善による報酬のあり方と新たな報酬のあり方について、提言(素案)を4項目としてとりまとめた。

4. 次年度の活動について

令和4年度に検討した上記に基づいて、次年度は以下について活動する予定である。

(1) 成果連動型報酬形態等が導入されたプロジェクトの現地取材

A/P方式、SIB方式等の成果連動型報酬形態の現地取材

(2) 新たな報酬のあり方の提言(案)の作成

- a) マネジメントシステム委員会との意見交換
上記(1)の現地取材情報に基づく意見交換
- b) 提言書一次案の作成

2022年度に作成した提言書(素案)のリバイス

(報酬のあり方検討WG WG長 杉本 龍志)